

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～国際感覚を備えた新しい時代のリーダーを育てる学校をめざす～

1. 生徒が希望する進路を実現することに繋がる確かな学力を育む
2. 国際理解教育の推進を図り、自己表現力、コミュニケーション能力を身につけることにより、グローバル化の進む社会で活躍できる人物を育てる
3. 夢を叶えるためのモチベーションを維持し、リーダーに必要な社会人基礎力を身につけた人物を育てる

2 中期的目標

1 確かな学力の育成【授業力】

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基本的な学力の定着を礎に、進路実現に繋がる確かな学力を育む。また、各教科の授業実践とその検証を基に、関係する委員会を核として「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として教員の授業改善に取り組む。
 - ア これまでの授業に加え、適材適所に ICT の活用を推進し、学習内容の理解、定着をすすめる。
 - イ 各教科で教え方、使用する副教材（ICT の副教材やプリント等）の研究をするとともに好事例の情報共有を図る。
 - ウ 全ての教科・科目で、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。
 - エ 自ら考え、自ら発信する力を醸成するため、各授業で適宜アクティブ・ラーニングを導入する。つまり、一方向の受動的な授業から脱却し、生徒が能動的に学修する授業になるよう取り組む。そのことにより、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。（例えば、授業中に既習事項確認の発話（ディスカッション）の時間を設ける等）
 - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を平成 28 年度の 47.7%を、平成 31 年度 55%となることを目標とする
 - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答平成 28 年度 74.3%、「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答平成 28 年度 77.5%を平成 31 年度 80%となることを目標とする。
 - ※ 英語検定準 2 級以上の合格者合計、平成 28 年度 109 名を平成 31 年度 120 名を目標とする。
 - オ 教員の所属学年を超えて講習にあたる体制作りを通して講習の充実と学力の伸長を図る。
 - カ 進路指導部・学年・教科が密に連携し、年間計画に基づいた学習指導、進路指導を行い、進路実現を図る。
 - ※ 国公立大学現役合格者数平成 28 年度 5 名を、平成 31 年度には 7 名を目標とする。
 - ※ 難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数平成 28 年度 249 名を、平成 31 年度には 250 名を目標とする。

2 キャリア教育に基づく自己実現の支援【自律・自己実現の支援】

- (1) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む。
 - ア マナーや常識、規範意識や協調性の大切さについて常に意識する。
 - イ 社会や学校のルールを守り、自発的に自分自身で考えて行動し、自分自身の規範に従って己を律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。
 - ウ 生活指導部・学年等で密に連携し、基本的な生活習慣、校則の遵守などの生活指導を組織的かつ丁寧に行う。
 - ※ 頭髪、服装、遅刻指導を徹底する。遅刻について平成 28 年度 1876 件を、平成 31 年度 1400 件程度に減することを目標とする。
- (2) 総合的な学習の時間や HR を活用し、生徒の生きる力の醸成を図る。
- (3) 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、成功体験、失敗体験から「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む。
 - ア 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。
 - イ 普通科、国際教養科の隔たりなく、国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受け入れ等に取り組むことを推奨する。
 - ※ 部活動加入率（3 学年平均）、平成 28 年度 68.9%を平成 31 年度には 70%に伸ばすことを目標とする。

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。
 - ア 運営会議、職員会議などの充実を図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う。
 - イ 前年踏襲ではなく、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める。
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。⇒ICT 機器整備と活用促進を図り、授業改善、校務の効率化に繋げる。
 - ア 教職員間メールや掲示板の活用を推奨し、校務分担などの事務的作業の簡略化、授業準備の共有化を図る方法を教員主体で構築する。また、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす。
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る。
 - ア HP を更に充実させる。
 - イ クラブ等の地域行事参加
 - ウ 教員による中学校訪問、学校主催のオープンスクールや招致される進学説明会等の広報活動の充実を図る。
 - ※ 学力検査の応募状況、合格者分布等を精査し、積極的に進学説明会に参加する。また校内でオープンスクールを年 3 回開催する。合計 1800 名程の中学生、保護者の来校を目標とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>□肯定的回答（よくあてはまる、ややあてはまる）の割合 今年%（昨年%）</p> <p>●確かな学力の育成</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすい。49.6%（47.7%） ・授業で分からないことについて先生に質問しやすい。58.8%（55.2%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供は授業が分かりやすく興味深いと言っている。38.2%（38.2%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選・工夫を行っている。82.7%（92.5%） ・学習指導の方法や内容について工夫している。86.5%（87.5%） <p>【分析】</p> <p>昨年と同様に生徒・保護者の回答から「授業がわかりやすい」の割合が低いことに対して、学校として真摯に受け止め、取り組んでいく必要がある。別途実施の授業アンケートでは75%の生徒より、授業に興味関心を持ち、知識や技能が身についたと感じているという肯定的な評価があった。</p> <p>また、82%を超える教員が、教材の精選・工夫や学習指導の方法や内容について工夫していると回答している。これらについて、生徒、保護者、教職員の間で意見に相違があるので検討していきたい。</p> <p>●学校生活全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい。75.9%（74.5%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある。80.8%（74.7%） ・先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる。50.0%（52.3%） ・担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。56.9%（56.8%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは学校に行くのを楽しみにしている。77.9%（78.8%） ・将来の進路や生き方について適切な指導を行っている。64.3%（64.9%） ・学校の生徒指導の方針に共感できる。61.1%（67.1%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒の意見をよく聞いている。88.5%（77.5%） ・生徒の問題行動が起こったとき組織的に対応できる。57.7%（70.0%） ・生徒はクラス担任以外の教職員とも相談できる。57.7%（62.5%） <p>【分析】</p> <p>「学校に行くのが楽しい」「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」は生徒、保護者ともにほぼ昨年と同じである。</p> <p>「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答えた生徒は6ポイント上昇した。進路指導部を中心に多様な説明会を行っている結果だと言える。</p> <p>保護者の「学校の生徒指導の方針に共感できる」が6ポイント減少している。これは応援団の演舞をプログラムから外したことにに対する意見であると考えられる。体育祭、特に応援団の在り方・活動については、昨年度の状況を踏まえて現在検討中である。教職員と生徒代表との話し合いも予定している。</p> <p>生徒相談に関する「先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる」は50.0%で低いように思われるが、実際は無回答が30.0%もあり、他の項目にはこのような傾向は見られない。おそらく実際にいじめにあっていないためわからない、というものが含まれると考えられるが、今後もいじめに対してはアンテナを高くして注意を払っていきたい。</p> <p>●学校経営・施設整備全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室等は授業や生活がしやすいように整備されている。52.1%（57.2%） ・学校からの諸連絡を保護者に漏らさず伝えている。61.3%（62.3%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる。47.9%（48.4%） ・子どもは学校からの諸連絡を漏らさず伝えている。62.8%（58.4%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に教職員の意見が反映されている。61.5%（50.0%） ・分掌や学年間の連携が円滑に行われている。40.4%（27.5%） ・教育活動について生徒・保護者への周知に努めている。63.5%（65.0%） <p>【分析】</p> <p>施設設備の老朽化とともに教室が狭い、トイレ環境が悪いなど生徒、保護者ともに改善の要望が強い。昨年のご指摘もあり、今年度は体育館のトイレの配管を改修したり、男子トイレの方式を変更改修した。</p> <p>学校からの情報発信については今年度からホームページに学校で配布されたプリントの題名を掲載することとした。学年のメールマガジンは府のサーバー交換の為システム上送信できない状況であったが、そのことが教員側のポイント減につながっていると思われる。</p> <p>教員の「分掌や学年間の連携が円滑に行われている」が13ポイントと大幅に上昇している。新設のSHK委員会等の動きも効果があったと思われる。</p>	<p>□第1回（6月21日）</p> <p>「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校長挨拶 (2) 委員自己紹介、事務局員自己紹介 (3) 今年度の学校経営目標と現状報告(校長) (4) 各分掌の取組み <ol style="list-style-type: none"> ① 進路指導部 ② 生活指導部 ③ 図書教養部 ④ 情報部 (5) 協議(主な提言等) <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導についても学校の努力がうかがえる、あわせて家庭の協力も大切であると感じた。 ・学校での配付プリントについてホームページで項目のみ知らせているのは学校、生徒および保護者との関係を密にするのに役立っている。 ・国際交流についてますます活発になっている。留学制度について詳しい説明が聞けた。 ・進路の実績も良好である。卒業生を講師として招へいするなど様々な取り組みが行われている。 (6) 校長謝辞 <p>□第2回（11月13日）</p> <p>「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> (0) 授業見学 (1) 校長挨拶 (2) 委員近況報告 (3) 中学校訪問および新たな取り組みについて報告(首席) (4) 各分掌から報告 <ol style="list-style-type: none"> ① 進路指導部 ② 図書教養部 ③ 情報部 (5) 協議(主な提言等) <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学ではICTの活用の状況を知ることができた。 ・小中学校と比べて学習すべき情報量が多いことが分かった。 ・生徒は集中して授業を受けていた。 ・暖房がはいつているためか、教室の空気が悪いと感じた。改善を望む。 ・NETとのティームティーチングの授業で生徒が英語のシャワーを浴びているようだった。小学校では来年から3,4年生からも英語による活動が導入されるので参考になった。 (6) 校長謝辞 <p>□第3回（1月29日）</p> <p>「学校経営計画および学校評価について」（提言）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校長挨拶 (2) 委員近況報告 (3) 学校経営計画および学校評価について(校長) (4) 学校教育自己診断について(教頭、各学年) (5) 広報活動について(首席) (6) 平成29年度教科書選定について(教務) (7) 平成29年度入学制教育課程について(教務) (8) 協議(学校評価および提言) <ol style="list-style-type: none"> ① 遅刻について <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻している生徒と話しを重ねて理由を探っている。不注意による遅刻も増えているが、それ以外の遅刻も増えている遅れてでもいいから登校するよう促している生徒もいる。 ・数字を減らすだけがいいことではないので引き続き指導をお願いします。 ② キャリア教育について <ul style="list-style-type: none"> ・多くの体験を聞く機会を与えることができた。卒業生や職業人講話、新任教員の話聞く機会があった。大学受験についても身近な先輩からの話が響いた。 ・キャリアに対するチャンスを考え、与えてくれているのはよいこと。 ③ 教員の働き方改革について高校の実情は <ul style="list-style-type: none"> ・タイムカードで出勤を管理。80時間の超過勤務については産業医との面談を行っている。 ・今年度から毎週木曜日を19時退校の日と定めた。部活動についても休養日を週1回各部で鉄製するようにしたが、大会やコンテストの前は柔軟に対応している。 ・保護者の仕事の関係で家庭連絡が19時以降でないと無理な場合もある。 ・それぞれ苦労があると思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成【授業力】	<p>(1) 基本的な学力の定着を礎に、進路実現に繋がる確かな学力を育む。また、「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として教員の授業改善に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ICT等を用いて教育活動の活性化 ・総合HR研修委員会を中心に、研修を実施し、授業やクラス活動においても活用率を高めるとともにわかる授業を行う。</p> <p>イ 副教材の研究、及び教科における情報の共有化を図る。</p> <p>ウ 授業で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。</p> <p>エ アクティブラーニングを取り入れ汎用的能力の育成を図る。 ①アクティブ・ラーニングには発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効な方法であるので取り入れる。 ②平成28年度の授業アンケートを参考にし、授業力の向上を図る。</p> <p>オ 各部署が連携し、学習指導、進路指導を行い、進路実現を図る。 ①講習・補習を充実させ、学習の機会を増やす。自宅より学校での学習により力をつける生徒もいるので常設ではないが自習室の設定等を行う。(余裕教室がなく、常設としての自習室がつかれない) ②センター試験、英語検定試験受験を推奨する。 ③各教員の授業力の向上とともに生徒一人ひとりに向き合う相談体制の確立を図る。 ④学校教育自己診断等の結果を踏まえ、年間実践の振り返りと課題探索を行う。</p>	<p>□学校教育自己診断の結果</p> <p>●「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、平成28年度の47.7%を50%以上にする。</p> <p>□授業アンケートの結果</p> <p>●「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、平成28年74.3%を75%以上にする。</p> <p>●「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、平成28年度77.5%を78%以上にする。</p> <p>□取り組みから</p> <p>●英検準2級以上合格者数 英検準2級以上合格者数合計、平成28年度109名を115名にする。</p> <p>●センター試験受験者数 センター試験受験者、平成28年度102名が110名になることを目標とする。</p> <p>●国公立大学現役合格者数 国公立大学現役合格者、平成28年度5名を維持することを目標とする。</p> <p>●特定私立大学合格者数による観測 定点観測のために、特定の私立大学(関関同立・産近甲龍・関西/京都外大)現役合格者を経年で比較する。平成28年度249名を255名以上にすることを目標とする。</p> <p>●語学関係行事</p> <p>①英国語学研修、オーストラリアホームステイ研修及びその事前研修を充実させ、実施する。 ②タイからの姉妹校生徒の受け入れを充実させ、実施する。 ③台湾の高校との相互交流を実施する。 ④留学生の受入れを積極的に行う。 ⑤語学力を高めるため、語学系の暗唱大会やインターナショナルフェスティバル等への参加を推奨する。</p> <p>●補習・講習 各種講習を充実させ、学習の機会を増やす。</p> <p>●特別授業 生徒の興味・関心を高め、視野を広げることができるよう有意義な特別授業を実施する。</p>	<p>□学校教育自己診断の結果</p> <p>●「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、平成29年度の49.6%。(△)</p> <p>□授業アンケートの結果</p> <p>●「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、平成29年74.3%。(△)</p> <p>●「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、平成29年度77.7%。(△)</p> <p>□取り組みから</p> <p>●現在準2級以上合格者数は163名(1月末現在)。1次試験の前にはCALL教室でPCを使用した自主練習ができるようにしている。2次試験の前にはNETによる面接指導を行っている。(◎)</p> <p>●センター試験出願者157名(◎)</p> <p>●国公立大学現役合格者数 3名 (△)</p> <p>●難関私立大学合格者数 141名 (△)</p> <p>●語学関係行事(◎)</p> <p>①英に18名、豪に12名参加。事前研修では日本紹介のプレゼンをパワーポイントで作成し、事後研修では体験してきたことを壁新聞にまとめ、文化祭で展示した。</p> <p>②生徒10名、教員2名を受け入れた。授業の他、1,2年のHRにも参加し交流を深めた。今後も交流を続けていけるよう受け入れ方法を改善した。</p> <p>③昨年度修学旅行で訪問した林口高級中学から生徒55名教員3名を受け入れ、全体交流会や授業体験で交流した。</p> <p>④長期留学生として、フィンランド、ドイツから女子各1名ずつ、イタリアから男子1名を受け入れた。また、1日学校体験として、6月にフィンランドの男子学生2名、1月に韓国の学生20名を受け入れた。</p> <p>⑤インターナショナルフェスティバルへは1年校内レシテーション大会の優勝者、2年校内スピーチ大会の優勝者、2年第二外国語暗唱大会、6言語(ペア)それぞれの優勝者合計14名が参加。</p> <p>●補習・講習(○)</p> <p>・国語、数学、英語、理科、社会で講習を実施。 ・大阪大学「教職実践演習」を受け入れ、大学生による放課後の学習サポートを年18回実施。</p> <p>●特別授業(○)</p> <p>・英語即興ディベート 国際教養科3年 ・「オトナたちに教えようSNS」公開講座を実施1年全員 ・英語落語 国際教養科3年</p>

府立旭高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
キャリア教育に基づく自己実現の支援【自立・自己実現の支援】	<p>(1) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒の「生きる力」の醸成を図る。</p>	<p>(1) ア 規範意識や協調性の大切さについて常に意識する。 イ 社会や学校のルールを守り、自発的に自分を律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。 ウ 生活指導部、学年等で密に連携し、基本的な生活習慣、校則の遵守などの生活指導をしっかりと行う。 ①指導方針の明確化を図り、全教職員一致して実践する。 ②遅刻、挨拶、頭髪や服装についてなど、社会人としての規範意識や協調性を培い継続的に指導する。</p> <p>(2) ①総合的な学習の時間やHRを活用する。 ②SNS 対策、薬物乱用防止など、生徒の安心、安全に係る行事、講演会の取り組みは継続して行う。</p>	<p>□生活指導関係</p> <p>●遅刻者数を減らす</p> <p>・平成 28 年度は年間遅刻数（3 学年合計）が平成 27 年度より増えて 1876 件であった。平成 29 年度は 1400 件程度にする。これまで遅刻者数はかなり減少してきた。様々な理由によって起こる遅刻もあるなかで、指導を続け、個々の事情を考慮しつつ、不注意等による遅刻に対してはしっかりと指導し、今後も地道に遅刻数を減らすことをめざす。</p> <p>□行事関係</p> <p>●生徒指導に関する行事</p> <p>危機管理の一環としての避難訓練や、社会生活をおくるうえでSNS や薬物の危険性について、情報を得て判断ができるように講演を実施する。 そのため、講演又は研修を 2 回以上実施する。（平成 28 年度は 2 回）</p> <p>●進路指導に関する行事</p> <p>・進路に関する行事を充実させ、選択肢を示しながら生徒が希望する進路実現に繋げていく。 *学力診断テスト、模擬試験等を学年毎に 2 回以上実施。 （平成 28 年度 3 年 5 回、2 年 3 回、1 年 2 回） *進路に関する説明会及び講演会を 4 回以上実施。 （平成 28 年度は 4 回） *大学見学会、卒業生と懇談、大学による模擬授業等を実施。 （平成 28 年度は各 1 回）</p>	<p>□生活指導関係</p> <p>●遅刻者数 2559 件（△）</p> <p>昨年度よりも大幅に増えている。昨年度の反省を踏まえ、指導内容を見直したが、改善には繋がっていない。また、全体的に登校時間が遅くなっている傾向もあり、改善策を検討しなければならない。 一方、校則（生徒手帳にある服装心得）の頭髪指導に関する部分等の古い表現が残っていた箇所を現行の指導に即したものに修正した。</p> <p>□行事関係</p> <p>●生徒指導に関する行事（○）</p> <p>・情報モラル講演会実施（1・3 年生対象）講師：篠原嘉一（N I T 情報技術推進ネットワーク株式会社代表取締役） ・薬物講演会実施（1 年生対象）講師：旭警察署から 2 名</p> <p>●進路指導に関する行事（○）</p> <p>・校内実施模試 3 年 4 月、7 月、9 月 2 年 11 月、1 月 1 年 11 月、1 月 看護医療模試（5、9、2 月） ・学力診断 1 年・2 年（4、8 月） ・実力考査 3 年（4、8 月） ・1 日看護師体験（2 年 8 月） ・生徒対象進路説明会 3 年（四大、大学短大指定校、専門学校指定校、センター、国公立、就職、公務員） 2 年（6 月進路別、7 月学校別） ・国公立合格者によるアドバイス会（新 3 年 3 月） ・新任先生による教育系懇談会（3 年 7 月） ・卒業生招聘進路 HR ” Tell Us about Your University Life ”（大学 1 年生 9 名 1 年 9 月） ・職業人講話（企業より講師 7 名 2 年 1 月） ・卒業生招聘講演会（大学生 4 年生 3 名 1 年 1 月） ・各種奨学金説明会 ・保護者対象大学進学説明会（ファイナンシャルプランナー招聘）2 回（5 月 123 年 2 月 2 年） ・講師招聘進学講演会 1 回（2 年 3 月） ・1 年大学見学会（10 月国公立 9 キャンパス） ・2 年模擬授業（大学より 17 講座）</p>
	<p>(3) 「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力を養成する。また、生徒がよりよく社会に参画する態度を育む。</p>	<p>(3) ア 集団活動の機会と環境を提供し、積極的に取り組むことで他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。 イ 国際交流、海外語学研修や留学生の受け入れ等に取り組み、国際感覚を醸成する。 ①部活動支援のための協力体制を強化する。 ②学期毎に各部の活動状況、生徒の様子把握等に取り組む。 ③部活動休養日の実行 ④体育祭、文化祭等の学校行事の充実、国際理解教育の実践、国際交流の充実に取り組み、英語教育力の向上を図る。</p>	<p>●国際理解教育に関する行事</p> <p>・国際交流を推進し、生徒の国際感覚を醸成できる環境を提供する。 *JICA 関西等への訪問 （平成 28 年度は 4 回） *JICA による来日した技術研修員等の受け入れ （平成 28 年度は 4 回） ※ただし、JICA 行事は抽選等のため変更の可能性有 *授業「国際理解」の充実</p> <p>●部活動加入率</p> <p>・平成 28 年度の部活動加入率（3 学年平均）68.9%を同程度にすることを目標とする。</p>	<p>●国際理解教育に関する行事（○）</p> <p>・1 年 Jica 関西訪問（7 月 80 名。留学生を含む） ・Jica 技術研修員 17 カ国 17 名来校。（6 月）国際理解の授業で 2 年生 80 名が交流。昼食時には 1～3 年希望者約 20 名が昼食をとりながら交流した。 ・国際理解の講座として「グローバルな話題から国際理解を深める」「生活と文化～日本と諸外国～」 「スピーチを通して世界の問題に触れる」の 3 講座を開講した。生徒はそれぞれの講座でテーマを決め、3 回プレゼンを行った。 ・日本ユニセフ協会大阪支部ボランティアの方から国際教養科 1 年生に対して「こどもと武力紛争」についての講演会を行った。</p> <p>●部活動加入率（△）</p> <p>・平成 29 年度部活動加入率（3 学年平均）66.8% 今年度より卓球部・生物部が部に昇格し、運動部 14、文化部 10、同好会 2 の計 26 部である。学年別では 1 年生 73%、2 年生 63%、3 年生 59%、男女別では男子 73%、女子 61%となっている。</p>

府立旭高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】	(1) 取り組みの共通理解	(1) 教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。 ア①運営会議、職員会議などの充実を図り、校務分担体制を確立する。 ②総合 HR 研修委員会の活動を本格化する。 ③修学旅行委員会は定着し、学校の教育活動を見据えた修学旅行を検討する。 イ 教職員が常に「向上」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業力の向上に一丸となって取り組むよう努める。 ①担任と副担任が協力して学級運営にあたる。 ②教職員全員が「向上」の意識をもつ。	□学校運営：年間を通しての取組み ●教職員研修 総合 HR 研修委員会において教職員研修を担当し、企画、運営する。 教職員に対してベーシックな研修と発展的な研修を設定し、教員力の向上をめざす。 ＊クラス開き研修、ICT 機器活用研修等 ＊生徒理解のための研修を年3回以上実施 (平成 28 年度は 3 回) ●学校教育自己診断の結果 ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」についての肯定的回答、平成 28 年度の 67.5% を 68.5% 以上にする。 ・「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」についての肯定的回答、平成 28 年度の 87.5% を 89% 以上にする。 ・「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」についての肯定的回答、平成 28 年度の 40% を 50% 以上にする。	●教職員研修 (○) ・SHK 委員会が 5 回の研修を企画。 (3/29 クラス開き研修 主に新採教員向け) (5/23 前半 ICT 研修 使い方基礎編) (5/23 後半 授業作り講座 国語科の実践例) (7/21 ICT 研修 社・数・理の実践例) (12/4 旭どないしょ研修) ・若手の教員の成長を促す研修と年配教員も含めて ICT を使った授業のノウハウを広めることに重点。 ・他に人権教育推進委員会、生徒支援委員会との共催研修を実施。 テマ：トランスジェンダー生徒への対応(7/7) 生徒の SOS をキャッチするため(7/10) ●学校教育自己診断の結果 (△) ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」についての肯定的回答、平成 29 年度 53.8%。 ・「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」についての肯定的回答、平成 29 年度 86.5%。 ・「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」についての肯定的回答、平成 29 年度 55.8%。
	(2) ICT の活用	(2) 教職員間メールや掲示板の活用を推奨し、事務的作業の簡略化を図り、経費削減の意識を持って教職員間の使用ペーパーの削減をめざす。	●校務への ICT の活用 連絡については、メール等を活用し印刷物を減らす。 生徒情報等機を逃さずに共有する。	●校務への ICT の活用 (○) ・メールや掲示板を活用し、印刷物を減らすことができた。 ・生徒情報も校務処理システムを活用し、年度途中で本校に勤務になった職員も成績や出欠を確認し情報を共有することができた。
	(3) 地域連携	(3) 広報活動の充実と拡大 ①地域コミュニティー等や小中学校との連携と貢献を図る。 ②中学校訪問や学校説明会の際に持参する資料の充実、及び学校紹介の仕方の共有を図る。広報活動実施後のまとめや反省を校内で行い、今後に繋げる。	●地域連携 旭区内唯一の公立高校として、地域との関わりや行事に積極的に参画し、連携を深めていく。 ＊高殿小学校児童の体験授業 (平成 28 年度 1 回) ＊旭陽中学校へのお出前授業および本校の説明 (平成 28 年度各 1 回) ●広報活動 ・HP の更なる充実を図る。 ・28 年度入学者の地域分布を精査して中学訪問校数や学校説明会参加数を調整する。 ・オープンスクールは平成 28 年度は 3 回実施し、その来校者は 1885 名であった。 平成 29 年度も 3 回以上実施するが、課題もあるので方法等を改善し、よりよいオープンスクールを実施する。	●地域連携 (○) ・高殿小学校児童の体験授業実施 1 回。 ・旭陽中学校へのお出前授業および本校の説明実施各 1 回。 ・高殿小学校児童会のボランティア活動に本校生徒会が協力。全校生徒に呼びかけ使っていない子供用衣服を集めた。 ・高殿小学校で行われた「わいわい祭り」にボランティアとして 70 名の生徒が参加。 ・旭区民センターで行われた「第 1 回 Xmas だよ！若気の至り祭」にボランティアとして 15 名の生徒が参加。 ・吹奏楽部による地域開催の「たそがれコンサート」、旭区民祭での演奏、老人ホームへの慰問演奏 ・クラブ員による地域清掃 ●広報活動 (○) ・月 2 回以上更新した。 ・中学訪問は前年並みの 100 校を選び、夏休みを中心に教員が分担して訪問。訪問校は近隣校を中心に、受験者数、入学者数などから判断した。 ・オープンスクールは合計 3 回実施。延べ参加者数は 1741 名。一回平均約 600 名になるように計画した。 ・本校生徒の授業時間を確保するため第三回目を土曜日の午前開催とした。時間変更によるマイナスの影響はなかった。オープンスクール参加者に感想を書いてもらったが、記入欄には概ね肯定的な意見が多かった。